

環境活動レポート2011年度版

2011.5.1~2012.4.30

Ver1.2

2012年05月25日

紙から始めるコミュニケーション
株式会社長門屋商店

- 社名 株式会社長門屋商店
- 代表者 代表取締役 横溝純一
- 創業 1947年
- 設立 1953年
- 資本金 1,000万円
- 社員数 18名(就業する役員含む)
- 業務内容 紙製品の製造卸・小売業・賃貸業

主力商品



プリンタ用紙

祝儀・和文具

■ 事業所

- ◆ 本 社 東京都港区麻布十番1-5-25
- ◆ 東陽センター 東京都江東区東陽1-3-3
- ◆ 文具小売部 東京都港区麻布十番1-5-25 1F

■ 事業規模

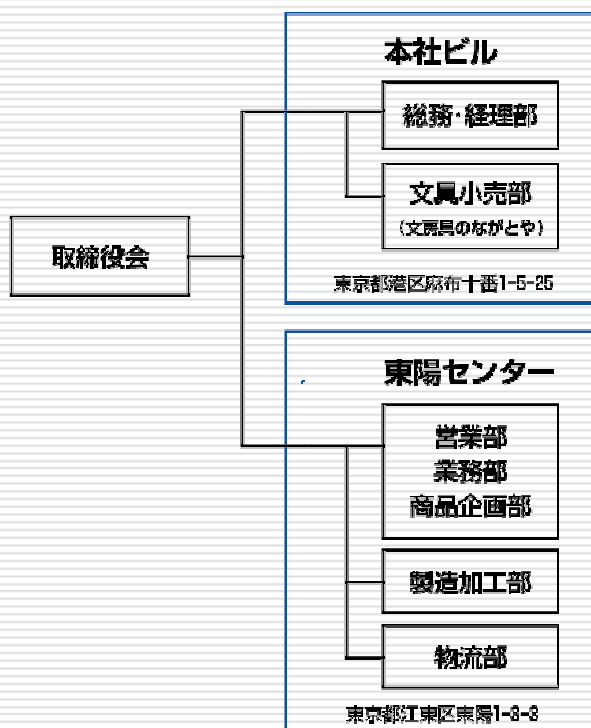
	2010年度	2011年度
売上高(万円)	55,072	57,812

■ 環境管理責任者

東陽センター長 中島淳

nakajima@nagatoya.com

■ 組織図



■ 本社ビル (2011.05～ EA21対象範囲拡大)

- ◆ 本社(総務・経理部) 財務・不動産管理
- ◆ 文具小売部 一般文具の店頭販売

■ 東陽センター (2006.12～ EA21対象範囲)

- ◆ 営業部 ルート営業
- ◆ 業務部 受発注・伝票処理
営業サポート等
- ◆ 商品企画部
- ◆ 製造加工部 商品の二次加工ほか
- ◆ 物流部 入在庫管理・在庫管理

■ 基本理念

- ◆ 当社は、紙加工品の商社として「環境にやさしい商品づくり」をメインテーマに、環境に配慮した製品の開発・拡販を積極的に推進し、環境配慮企業として循環型社会形成に寄与する企業活動を展開して参ります。また、日常推進事項として以下に掲げる項目を継続的な環境配慮活動として取り組んで参ります。

■ 活動指針

- ◆ 環境にやさしい商品づくり
 - 環境に配慮した新商品を積極的に開発して参ります。
 - 商品の包装や資材などを見直し環境負荷軽減に努めます。
 - 商品の売上げの一部を森林保護活動の為に役立てます。
 - 効率的な在庫管理をし、入在庫などに関わる物流エネルギーの削減に努めます。
- ◆ 省エネルギー
 - 資源やエネルギーの消費による環境負荷を認識し、限りある資源の保全に努めます。
- ◆ 廃棄物削減と汚染防止
 - 資源固有の特性を有効に活用し、廃棄物の抑制に取り組み環境汚染の防止に努めます。
- ◆ 関連法規制順守
 - 企業活動に関係する環境関連法規・条例・規制等を順守します。
- ◆ グリーン購入
 - 日常業務において使用する社用品にはグリーン製品を積極的に使用します。
- ◆ 環境活動に関する継続的持続
 - 環境負荷に関する内容をデータ管理し、目標を設定し継続的に持続達成に努めます。
- ◆ 環境活動の公表
 - 環境活動の計画及び実施状況を「環境活動レポート」としてとりまとめ公表致します。

2006年11月1日制定

2010年 5月1日改定

株式会社長門屋商店
代表取締役 横溝純一

Ver2.5

環境目標および達成状況一覧

実施事項	2010年度実績	2011年度実績	設定目標(単年 及び 3力年)		達成状況
①-A 電力消費量	61,329kwh	51,820kwh 前年比 -15.5%	2011年度	60,102kwh 2010年比 -2%	○
			2012年度	50,903kwh -17%	
			2013年度	50,290kwh -18%	
①-B ガソリン給油量	12,319リットル	10,592リットル 前年比 -14.0%	2011年度	12,073リットル 2010年比 -2%	○
			2012年度	10,471リットル -15%	
			2013年度	10,225リットル -17%	
排出CO2削減	52,576 kg	43,753 kg 前年比 -16.8%	2011年度	51,524 kg 2010年比 -2%	○
			2012年度	43,112 kg -18%	
			2013年度	42,061 kg -20%	
② 水使用量	236m3	232m3 前年比 -1.7%	2011年度	234m3 2010年比 -1%	○
			2012年度	229m3 -3%	
			2013年度	224m3 -5%	
③ 廃棄物の排出量	439.2kg	430.2kg 前年比 -2.0%	2011年度	430.4kg 2010年比 -2%	○
			2012年度	421.6kg -4%	
			2013年度	412.8kg -6%	
④ 環境対応商品売上高	22,042万円	24,828万円 前年比 +12.6%	2011年度	23,144万円 2010年比 +5%	○
			2012年度	26,230万円 +19%	
			2013年度	27,553万円 +25%	

集計は5月～翌4月を単年度としております。(例 2008年度:2008年5月～2009年4月)

①-A 電力消費量の削減

■ **実績 実質電力消費量は
2010年度比15.5%削減致しました。**



本社ビル	2010年度	2011年度
購入電力量(1)	41,638kwh	34,187kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)		
実質電力消費量(1)+(2)	41,638kwh	34,187kwh
前年比		82.11%

東陽センター	2010年度	2011年度
購入電力量(1)	14,774kwh	10,901kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	4,917kwh	6,732kwh
実質電力消費量(1)+(2)	19,691kwh	17,633kwh
前年比		89.55%

全社合計	2010年度	2011年度
購入電力量(1)	56,412kwh	45,088kwh
太陽光発電分からの社内消費量(2)	4,917kwh	6,732kwh
実質電力消費量(1)+(2)	61,329kwh	51,820kwh
前年比		84.50%

購入電力量での排出CO2	23,975kg	19,162kg
前年比		79.93%

環境省HPより

CO2排出係数	0.425
---------	-------

太陽光発電は従量電灯に接続しており、社内消費と相殺し、余剰分は売電しています。

①-A 電力消費量の削減

■ 新たな取組



文具小売部の店頭のスプロットライトとバックヤード照明をLED化

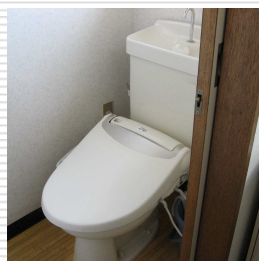


本社オフィスは最新エアコンとLED照明

■ 継続実施中



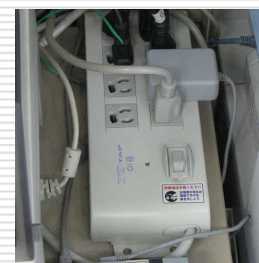
室温コントロール:冷房時28°C・暖房時22°C



便座のフタを閉めて放熱防止



扇風機・サーキュレータ併用でエアコン効率アップ



待機電流使用機器はOAタップで完全OFF



倉庫内や廊下の灯火は必要な分のみ

①-A 電力消費量の削減



2012.05.17～稼働を開始した
麻布十番本社ビル屋上に設置した
太陽光パネル54枚 9.8kw



■ 取組の詳細

- ◆ 本社事務所をリニューアル、LED照明、最新エアコン、省エネ複合機を導入。
- ◆ 小売部の店舗照明をLEDとHF蛍光灯に変更。
- ◆ 震災以後の高い節電意識

■ 評価・次年度へ

本社ビルの取り組み参加に伴い、集計方法を従来の原単位制から総量制に変更致しました。また太陽光発電はその年の天候に左右されるので、購入電力量の削減から太陽光で相殺した分を含めた「電力消費量の削減」と変更しております。

本社オフィス(LED照明・冷暖房・複合機)と文具小売部(LED照明・HF照明)には最新省エネ機器を導入、また震災以後の節電には積極的に取り組んでおり、大きな効果を生み出したと思われます。

2012年度は、2012年5月より発電を開始した本社ビル屋上の太陽光発電により、購入電力量削減され、排出CO2の減少が期待できます。



2010.08～稼働中の東陽センター
屋根の太陽光パネル10kw

①-B ガソリン給油量の削減

■実績 2010年度比14%削減致しました。

	2010年度	2011年度
給油量	12,319L	10,592L
前年比		85.98%

排出CO2	28,601kg	24,591kg
-------	----------	----------

EA21ガイドラインより

CO2 排出係数	2.32166
-------------	---------



■取組の詳細

本社ビルの取り組み参加に伴い、集計方法を従来の原単位制から総量制に変更致しました。

2011年6月に1台がハイブリッド車になりました。取組は従来通り、ガソリン給油量を各人ごと集計表して、燃費を算出し、意識付けを行っております。

■評価・次年度へ

2010年度に入れ替えた新車両を通年利用し効果が表れました。またハイブリッド車は、12.2km/L⇒16.7km/L、約500リットル減とやはり違います。

引き続き、物流経路短縮などの効率化を積極的に進めて参ります。

①CO2排出量削減

■CO2の排出量について

2011年度のみで16.8%のCO2削減を実現しました。
実に630本分の杉林が吸収するCO2を削減致しました。

2012年度は本社ビルの太陽光パネルが本格稼働して、購入電力量が減ります。さらなるCO2削減が見込まれます。



全社合計	2010年度	2011年度
本社ビル 購入電力	17,696kg	14,529kg
東陽センター 購入電力	6,279kg	4,633kg
全社 ガソリン給油量	28,601kg	24,591kg
排出CO2合計	52,576kg	43,753kg
前年比		83.22%

※樹齢50年,高さ20~30mのスギは年間約14kgのCO2を吸収するものと想定しております。[環境省・林野庁 資料より]

②水使用量削減

■ 実績 2010年度比1.7%削減致しました。

本社ビル	2010年度	2011年度
上下水道	42m ³	39m ³
前年比		92.86%

東陽センター	2010年度	2011年度
上下水道	194m ³	193m ³
前年比		99.48%

全社合計	2010年度	2011年度
上下水道	236m ³	232m ³
前年比		98.31%



■取組の詳細

用途が手洗い・トイレ・清掃・飲用です。

洗車や水やりには、雨樋を加工して貯めた雨水を使うようにしています。

■評価・次年度へ

昨年目標設定を前年比-1%に変更しクリア一致しました。

大半がトイレの排水かと思います。

2012.6月に水量の少ない超節水トイレを導入しました。

今後も従来の取組みは継続してまいります。

③廃棄物の排出量削減

■ 実績 2010年度比2%削減致しました。

	2010年度	2011年度
可燃	376.2kg	374.4kg
プラ	63.0kg	55.8kg

	2010年度	2011年度
可燃・プラ合計	439.2kg	430.2kg
前年比		97.95%

■ 取組の詳細

プラごみは分別すると、産廃業者が作業を軽減できるとのことで、分別方法を変えました。なお本社ビルの廃棄物は、家庭ごみと事業ごみの双方が排出されるので、計測対象外としております。

■ 評価・次年度へ

7月の基幹システム入れ替えで、伝票類のゴミが減ったことのプラス要因です。なお、2011年度までは45リットルのごみ袋を1袋あたり、1.8キログラムとして換算しておりましたが、2012年度からはデジタルスケールを用いて実測を致します。

社内文書には、余り紙を使用



再ハクリラベルで箱の再利用促進



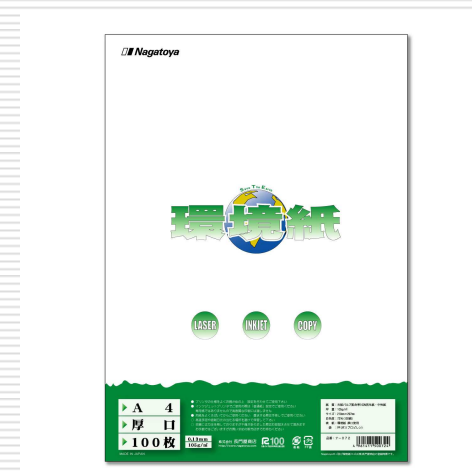
2012年度からはデジタルスケールで実測

■実績 2010年度比12.6%アップ致しました。

	2010年度	2011年度
環境対応商品	22,042万円	24,828万円
前年比		112.64%

当社基準による自社ブランドのエコ商品の売上高です。

- ◆売上の一部を環境保全団体へ寄付している。
- ◆原料に廃材や再生材を使用している。
- ◆非木材原料を使用している。



グリーン購入法適合用紙「環境紙」

■取組・評価・次年度へ

製品づくりは進みませんでした。OA用紙の主力商品の売上が拡大したことで、環境対応商品の売上高が上昇致しました。引き続き環境にやさしい商品づくりを心がけて参ります。



オイスカ「子供の森」計画支援

「子供の森」計画は子どもたち自身が、学校の敷地や隣接地で苗木を植え育てていく実践活動を通じて、「自然を愛する心」「緑を大切にする気持ち」を養いながら、地球の緑化を進めていこうという学校単位の新しい森づくり運動です。弊社製品の売上の一部を公益財団法人オイスカの進める「子供の森」計画に寄付しております。



WWF「しらはサンゴ村」支援

WWFジャパンは、沖縄県石垣島白保にサンゴ礁保護研究センター「しらはサンゴ村」を設立し、地元の白保の人たちとともに、サンゴ礁の調査や保全活動、持続的な海の資源利用に取り組んでいます。弊社では「OAマルチケント紙 美彩紙」のメーカー売上高の1%を活動支援金として寄付致します。



東京湾「海の森」植林活動

2011年11月

ゴミ埋め立て地の森作り「海の森」プロジェクトに社員の家族とともに参加いたしました。

「富士山の森づくり」植林活動

2011年5月

富士山の森林回復のためにオイスカ主催の活動に社員の家族とともに参加いたしました。



■環境関連法規への違反、訴訟などの有無

環境関連法規に関する違反はありません。
 また訴訟についても事例がありません。
 関係当局よりの違反の指摘は過去3年間ありません。

法規・条例	業務における順守事項	評価	
環境基本法 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 環境への負荷の低減の取組 ■ 自動車公害対策(アイドリングストップ) 	○	遵守
廃棄物処理法 東京都廃棄物条例	<ul style="list-style-type: none"> ■ 廃棄物処理業者の管理、分別廃棄の管理 	○	遵守
容器包装リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙容器・プラスチック袋の使用状況の把握 ■ 商品包装への識別マーク表示 ■ 上記の包装資材の再商品化義務 	○	遵守
下水道法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日常使用の範囲 	○	遵守
労働安全衛生規則	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電動フォークリフトの法定検査および自主検査 	○	遵守
自動車リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ リース車両につき、リース会社に委託 	○	遵守
家電リサイクル法	<ul style="list-style-type: none"> ■ 指定産廃業者に廃棄委託・支払 	○	遵守

2012年5月現在

■2012年度につきまして

＜効果が見込まれる施策＞

- ◆5月～本社ビル太陽光パネル稼働
- ◆社用車台数が減数予定
- ◆ハイブリッド車の通年利用
- ◆廃棄物の実測
- ◆超節水トイレ導入

実施事項	2011年度実績	2012年度目標	
①-A 電力消費量	51,820kwh	50,903kwh	前年比 -1.77%
①-B ガソリン給油量	10,592リットル	10,471リットル	前年比 -1.14%
排出CO2削減	43,753kg	43,112kg	前年比 -1.47%
② 水使用量	232m3	229m3	前年比 -1.29%
③ 廃棄物の排出量	430.2kg	421.6kg	前年比 -2.00%
④ 環境対応商品売上高	24,828万円	26,230万円	前年比 +5.65%

■環境管理指導責任者の総評

初の全社取組でした。本社ビルの方にはまだまだ余地があり、さらなる削減が期待できます。また5年近く続けている東陽センターに比べると、意識格差があります。これから指導を進めてまいります。

私事ですが、先日友人と節電の話になり、勤務先では震災前まで節電を全くしたことが無かったそうです。昨年の夏は非常に苦勞したと言っていました。お陰様でエコアクション21を5年も続けていたので苦勞を感じませんでした。取り組んでよかったと心より思いました。

ただ、例年より、かなりエアコンを控えめにしました。多少暑さに強くなったかもしれないですね。

今日現在、すべての原発が停止して火力発電がフル稼働、CO2排出係数もまだ公表されませんが、おそろしく跳ね上がるのかと思います。ただ昨年から行なってきた節電活動、案外工夫次第でどうにかなるなと感じた方も多かったはず。昨年は例年ほどヒートアイランド現象がひどくなかったとも報道されていました。この節電活動こそ一過性のものでなく持続すべきだと私は思います。

日本は長く低迷していますが、浮上のきっかけに世界一の節電環境大国を目指したらどうでしょう？
ただそれには、今の政治家の皆様では無理ですかね～

2012.05.24 中島淳

代表者による総括

私ども長門屋商店は自然エネルギー導入を積極的に推進し、港区麻布十番に在る本社の8階建てビル屋上に9.828kwの太陽光発電システムを設置、本年5月より太陽光発電を開始しました。2010年に導入をした江東区の東陽センターの太陽光発電システム(10kw)と合算すると、総量19.828kwの発電能力を有する企業となりました。

社外における環境活動の一環として植林活動にも積極的に取り組んでいます。昨年6月に公益財団法人オイスカが推進する植林事業「富士山の森づくり」へ社員とその家族計17名にて4年目の参加をし、11月には東京都が主催する「海の森」植樹プロジェクトへ同様に計11名が3年目の参加をするなど継続的な活動を進めています。

環境保全団体の活動支援にも取り組み、4月にWWFジャパンのサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」の活動支援金として、「美彩紙」シリーズの当社売上の一部(20万円)を寄付しました。また「カラーペーパー」シリーズの売上の一部(50万円)を公益財団法人オイスカの「子供の森」計画の支援金として寄付するなど、海洋や森林等の環境保全活動に間接的に寄与しております。

今年度環境活動レポートの「環境目標および達成状況」を総括しますと、前述の自然エネルギーの導入やLED照明の導入などの効果により電力消費量を大幅に削減することが出来ました。(−15.5%) 昨年3月の東日本大震災以降に高まった全社的な節電意識も、実質電力消費の数値から読み取ることが出来ます。国内は今夏も節電を余儀なくされる電力事情ですが、そうした観点からも当社の取り組みが少なからず社会貢献に繋がれば幸甚です。

ガソリンの使用量についてはここ数年削減を続けてきましたが、今期社用車1台をハイブリッド車へ入れ替えた効果はもちろんのこと、使用者全員の省エネ運転の徹底などにより更に大きな削減を可能にできたものと考えています。(−14%)

水使用量については約1.7%の削減となり、昨年度クリア出来なかった目標を今期は達成することが出来ました。節水コマの使用や雨水の再利用などに取り組んでおりますが、平素より生活水利用は必要最小限に留めている為、今後はこれ以上の削減は難しいと感じています。社内で削減方法など話し合っていきたいと思えます。

廃棄物排出量は、2%削減することが出来ました。これも目標達成です。引き続き削減に努めるように取り組んで参ります。

最後に環境対応商品の売上高アップについては12.6%の増加となっており確実に上昇傾向にあります。今期初めに環境対応商品を増幅した効果が売上高アップに繋がったと判断しております。



2011年05月25日
代表取締役 横溝純一

紙から始めるコミュニケーション

株式会社長門屋商店

<http://www.nagatoya.com>

編集者：長門屋商店 業務部 中島 淳

〒135-0016 東京都江東区東陽1-3-3
TEL 03-5690-7131
FAX 03-5690-8010
e-mail nakajima@nagatoya.com